

## 2010 北海道トレセン U-15 冬季交流大会 (9人制) 報告

釧路地区サッカー協会 加藤 隆英

- 1 期 日 平成23年1月7日(金)～9日(日)
- 2 場 所 札幌市スポーツ交流施設「つどーむ」
- 3 結 果 1月 7日(金) 「ミーティング」  
1月 8日(土) 対 道北 2-0 勝ち  
対 札幌 1-3 負け  
対 道央 2-0 勝ち  
1月 9日(日) 対 道推薦 0-2 負け  
対 道南 1-1 引き分け
- 4 成 績 1位;札幌 2位;道推薦 3位;**道東**  
4位;道央 5位;道南 6位;道北
- 5 スタッフ 加藤 隆英(釧路工業高) 石尾 浩一(根室高)、横田 秀樹(帯広緑陽高)  
木村 司(根室西高)、宮永 裕教(遠軽南中学校)、舟田 彩一朗(羅臼高校)

### 6 チーム編成について

#### ①大会規定

- ✓今大会から、8人制から9人制に変更。(前後半で総入れ替え)
- ✓つどーむの2面から、1面(80m×56m)に変更された。
- ✓審判2人制
- ✓GKのドロップ・パントキック禁止を除けば、11人制と同様のルールである。

#### ②スタッフ

各4地区より1名+GKコーチ

#### ③選手選考

今回は、選考会を行うことができなかったため秋に行われた北海道トレセンU-15(中学選抜大会)を参考に各地区からの推薦で選出した。

受験やフットサル全国大会等が重なり選手の招集に難航したが、網走の選手の追加招集を行い以下のように決定した。

帯広地区	推薦	16名	道推薦に3名	辞退	2名	→	11名選出
釧路地区	推薦	5名	辞退(R.シュペルブ	フットサル全国大会出場のため)		→	0名
根室地区	推薦	0名				→	0名
網走地区	推薦	3名	道推薦に1名	追加	5名	→	7名

## ○参加選手

GK	伊藤 真弥 (土幌町中央中学校)	笹原 一恭 (遠軽中)
DF	竹中 広大 (プログレッシブ十勝)	井上 竜馬 (北見小泉中学校)
	牧下 侑斗 (遠軽中)	平子 裕 (北見小泉中学校)
	永井 達麻 (帯北アンビシャス)	
MF	井戸 章一朗 (網走第三中学校)	船木 基矢 (紋別中)
	千葉 駿作 (プログレッシブ十勝)	青木 瑠 (プログレッシブ十勝)
	小林 祐介 (北見小泉中学校)	飯沼 直也 (土幌町中央中学校)
	橋本 洸 (新得中学校)	
FW	千葉 翔平 (プログレッシブ十勝)	児玉 圭輔 (帯広 FC)
	齊 瑞人 (音更中学校)	皆上 弦輝 (プログレッシブ十勝)

## 7. チームコンセプト 「堅守&速攻」

フォーメーション 3-3-2

### [攻撃について]

リスクを背負うが必ず2トップもしくは、FW 1人とSH 1人の2人が、起点となるように高い位置をとるように指示した。その起点となる選手へくさびをいれ、速攻を意識付けさせた。また、蹴り込むことなく、FWは、相手のDFラインの裏にタイミング良く、ポジションをとるように強調した。

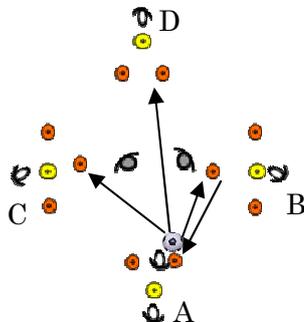
### [守備について]

最終ラインは、マンツーマンで責任の明確化を図り、同数で守備（個の能力の発揮）を行った。

ボールの奪いどころは、必ず、サイドで行いプレスバックをかけ、2枚で奪うことを強調した。センターラインの守備は、とにかくサイドへの制限を行うように指示した。

## 8. トレーニング (W-up)

### Tr.1 「パス&コントロール」



1) 大きさ 25m×15m

2) 用具 ボール、マーカー

3) 方法

① A → B か C (サイドにつける) or D (くさびを選択)

② B or Cは、ターン or Aにリターン → D

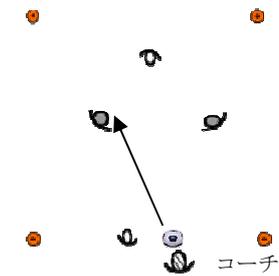
※中央にいる2人のコーチに奪われないように運ぶ。

赤マーカーでボールを受ける

### ●課題

- ✓ コミュニケーション (ターン等の指示)
- ✓ くさびのパスの精度とスピード (次のプレーへの配慮が低く、つける足までこだわっていない、)
- ✓ タイミング (特に裏のスペース (マーカー) で受ける意識と出す意識が低い)

Tr.2 「ボールを奪う」



●課題

- ✓ アプローチの距離が遠い
- ✓ 1st のディレイがサイドに制限できない。
- ✓ 1st の 2st へのコーチング (プレスバックか、マーク) 奪う意識が低い

1) 大きさ 15m×10m

2) 用具 ボール、マーカー

3) 方法

- ① コーチから、配球
- ② 配球後、守備側は、プレスバックを行い奪う。
- ③ 攻守ともに、ライン通過

9. 試合内容

① 対 道北 2-0 勝ち

前半	(1-0)		
	千葉(翔)	児玉	
千葉(駿)	青木	飯沼	
牧下	竹中	永井	
	伊藤		
後半	(1-0)		
	皆上	齋	
小林	井戸	船木	
平子	井上	橋本	
	笹原		

<概評> 道北 (3-4-1)

立ち上がりに相手チームが1トップだったために、相手サイドハーフに食いつきすぎ、センターバックが孤立した。相手チームのボランチが1枚多くサイドに制限できずに落ち着かない状態が続いた。

サイドバックは、DFラインを意識し、ゾーンに進入した相手選手にマンツーマンで対応するように修正。また、中盤は、Fwの1人がプレスバックを行い、サイドの限定を行った。

前半 9分 GK→飯沼ドリブル突破

後半 10分 左サイドの展開→GK→橋本→皆上

良い点 速攻を仕掛ける意識とくさびの意識

粘り強い守備

課題 GKからのビルドアップ

② 対 札幌 1-3 負け

前半	(0-2)		
	千葉(翔)	皆上	
青木	児玉	飯沼	
平子	永井	千葉(駿)	
	伊藤		
後半	(1-1)		
	小林	齋	
牧下	船木	井戸	
橋本	竹中	井上	
	笹原		

<概評> 札幌 (3-3-2)

ポジションをしっかりととり、早いパスワークで逆サイドに展開され、1対1を仕掛けてくる。また、サイドのビルドアップが行えずにボールを失う機会が多く、相手のDFラインの裏のスペースをつけずに自陣での展開が多くなり防戦が続いた。13分、16分とサイドチェンジから左サイドを突破され、クロスで2失点する。後半に、Fwの裏とくさびのタイミングの修正とビルドアップの改善を行った。サイドを変えられても、粘り強く守備を行いプレスバックの意識付けを行った。

後半 5分船木の右サイドの裏への飛び出し→小林で得点

後半 13分左サイドのプレスバックの遅れから突破され、クロス失点。

課題 ビルドアップ

プレスバック

③ 対 道央 2-0 勝ち

前半	(0-0)	
	千葉(翔)	齋
橋本	井戸	飯沼
牧下	千葉(駿)	永井
	伊藤	
後半	(2-0)	
	小林	皆上
船木	児玉	青木
平子	井上	竹中
	笹原	

<概評> 道央 (3-3-2)

前半、GKからのサイドバックの位置は、改善されたが、サイドハーフとボランチの受け方が身体の向きが悪くゴールを背にするのでつぶされる機会が多い。GKからの配球もビルトアップの不安と速攻を狙うあまり前線への浮き球が多くなり、跳ね返されかなりのシュートを打たれる。

後半、ボランチとサイドハーフの受け方とトップがプレッシャーを受けている中でもくさびを入れ、落とさせるように修正した。

6分 左サイドのビルドアップ→小林へくさびターン→皆上

7分 左サイドのビルドアップ→船木の仕掛け

→中央の児玉へ折り返しミドル

課題 ビルドアップからのサイドチェンジ

味方へのボールの付け方

④ 対 北海道推薦 0-2 負け

前半	(0-2)	
	千葉(翔)	皆上
船木	児玉	飯沼
平子	井上	千葉(駿)
	笹原	
後半	(0-0)	
	小林	齋
牧下	青木	井戸
橋本	竹中	永井
	伊藤	

<概評> 北海道推薦 (2-3-3)

シュート数 道東 前半 3本 北海道推薦 4本

後半 1本 2本

プレスバックの意識付けとビルドアップを強調し、ゲームに臨んだ。道推薦は3トップだったので2ラインがマンツーマンで対応することになり、プレスバックの意識を持って望んだのもありサイドでボールを奪うことができた。また、ビルトアップに関しては、前からプレスを受けるのでなかなかできなかつたが苦しいながら、速攻からのシュートする機会は作り出せた。

しかし、14分ラインが下がりすぎて、アプローチできずに中央からの突破で失点。17分左サイドを突破され失点。後半は、前線から2バックに積極的にプレスをかけるように修正した。互いにシュート数が減り、守備的要素の大きいゲーム展開になった。

⑤ 対 道南 1-1 引き分け

前半	(1-1)	
	千葉(翔)	皆上
船木	児玉	青木
平子	竹中	井上
	笹原	
後半	(0-0)	
	小林	齋
牧下	井戸	飯沼
橋本	千葉(駿)	永井
	伊藤	

<概評> 道南 (3-3-2)

シュート数 道東 前半 4本 道南 2本

後半 3本 1本

対道推薦を終えて連戦になったがモチベーションは、変わらずに望むことができた。前半 8分 右サイド青木→中央児玉→左サイド船木→児玉から得点。前半 15分 GK→Fw カウンターから2対1になり失点。原因として、リスクマネージメント不足があげられる。後半は、積極的に前線からプレスをかけ、高い位置で奪い、攻撃をしかけようとしたが得点には至らなかった。

課題 ビルドアップからの仕掛け

(特に 観る力 パス&コントロール)

## 10.総括

今年度は、帯広と網走の2地区で編成することになった。ホテルの部屋も必ず他地区と相部屋にしたせいもあり、選手同士コミュニケーションがとれていたように思える。オフザピッチも含め非常に素直に前向きに取り組んでいた。

チームコンセプトである「堅守&速攻」については、ゲームが進むにつれて守備の奪い方は浸透していき、サイドでプレスバックをかけて、2人で奪える展開が多くなった。しかし、札幌と道推薦の失点は、サイドでボールを奪いにいくが、丁寧なパスワークで展開するサイドを変えられ、守備の準備が間に合わない所を突破され失点した。課題として、守備におけるアプローチの距離を縮め、日常から厳しいプレッシャーの中でトレーニングする必要がある。

速攻に関しては、初日の道北戦の2点と札幌の1点に関しては、GKから、高い位置にいる起点になる選手に入り得点できた。ベースとなる個の力は、道東チームの選手が十分通じると感じた。

しかし、試合が進むにつれて、速攻するにも限りがあるので、やはりビルドアップ→仕掛け→崩しが必要になる。残念ながら、チームとして、浸透することができたのは、同サイドのビルドアップまでで、逆サイドに展開して仕掛ける局面は、数回（最終試合の道南の1点のみ）であった。この力は、失点からもわかるように北海道推薦と札幌との差を感じた。

今後の課題として、厳しいプレッシャーの中で観る力（優先順位を持って）をより向上し、パス&コントロールを行う技術が求められる。

最後に今大会に参加するにあたり、準備不足もあり至らぬ点が多々ある中、サポートしていただいた各地区協会の皆様並びに悪天候の中、応援に来ていただいた保護者の皆様に深く御礼を申し上げます。